



1921-2021

④ さようなら蒸気機関車

高山本線の蒸気機関車の中で最も活躍していたのが、C58形蒸気機関車(通称「シゴハチ」)で、美濃太田機関区には昭和17年に2両が初配置されました。しかし、蒸気機関車は手間がかかる割に動力の効率が悪く、吐き出す煙の影響も大きかったため、高山本線では昭和31年に煙の少ないディーゼル動力を導入。昭和44年の「さようなら運転」を最後に、美濃太田駅を通過する蒸気機関車は姿を消し、同年に高山本線、太多線、越美南線のすべてが無煙化となりました。

その後、昭和43年に旅客輸送の拡大とスピード化を図るため、それまで急行だった「ひだ」を特急に格上げして運行を開始。平成元年には新型の車両が導入され、現在も「ワイドビューひだ」として親しまれています。

そして飛騨方面から木材などを運んでいた貨物列車は、道路交通網の整備などによって昭和

43年をピークに減少。平成19年に岐阜―高山駅間の貨物輸送は廃止されました。



▲さようなら蒸気機関車
(昭和44年)



▲特急「ひだ」が初運行
(昭和43年)

文化の森企画展「鉄道のまち」展
(12月18日～3月6日)を開催
美濃太田駅や鉄道に関する写真や
情報を文化の森までお寄せください。